

愛労連第62回定期大会あいさつ(要旨)

第62回定期大会にお集まりの代議員・傍聴のみなさん、おはようございます。議長の知崎です。幹事会を代表して一言あいさつを申し上げます。

第1に、新型コロナウイルス感染症に関して、今年は100年後～200年後にも必ず歴史に残る年になるでしょう。その時に吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるのか」の本にあるように、今、私たち労働組合の役員として、どう活動し、どう生きたのかが問われます。残念ながら、政府のコロナ対策は、後生に禍根を残す、見ていられない無為無策で情けないと言わざるを得ません。

愛労連は、第1号議案の冒頭で記載していますが、結成当初より井上初代議長が「4トントラックに、10トン20トンの要求を積んでいる」と述べていますし、昨年11月の愛労連結成30周年記念レセプションでも、私から申しましたが、「労働者・国民が苦難に直面し、要求あるところに『愛労連』有りとして、奮闘していきたい」と決意をしたことが、実践の中で試されました。労働相談活動、トヨタ自動車・愛知県経営者協会・愛知県・名古屋市への要請、愛知県弁護士会との懇談、ハローワーク前や街頭での宣伝行動など、連日マスクミに取り上げられ、テレビに写り・新聞に掲載されました。この活動は、お互い大いに誇れる実績を残したのではないのでしょうか。でも、あまり自画自賛せずに、これからも謙虚でいきたいと思っています。

これからコロナの影響は、2008年のリーマンショック以上の雇用不安が来て、解雇・雇い止めが多くなって、何も対策をしなければ、年越し派遣村のような事態が起きます。現在、生活保護受給者や解雇など増えてきていますが、爆発的ではありません。先日の23日に地域経済の研究会で、愛知県中小企業家同友会の方から、お話しを聞く機会がありました。今回の状況に対して、アンケート結果では1年以上の企業も多数いましたが、6割の企業が半年以上は持ちこたえると回答しています。すると計算上3月を始点とすれば反対の4割の企業は、9月以降に何らかの対応策を検討することになります。よって、今想定されるのが、リーマンショックより大規模で、もっと長期的になります。

このような事態に対して、雇用の調整弁として扱われる弱い立場の非正規労働者が、国も企業も大変だから、賃金・雇用に関して労働者自身から、あきらめていないかと心配しています。自粛はするけど萎縮はしないことを言い続け、憲法25条の関係からも、権利として認められた生存権を主張し、労働組合として、労働者が泣き寝入りしないように、一人では大変なので、労働組合に加入して、仲間を増やしながらか、賃金・雇用をいっしょに守ろうと、訴えていくことが大切です。

第2に、最低賃金についてです。愛労連として最も力を入れた運動の1つですが、今年10月の改定は、7月20～22日の中央最低賃金審議会の議論でコロナによって、リーマンショックの時のように、「目安を示さず、現行水準を維持することが適当」といった、大きなブレーキがかかりました。さかのぼれば、4月に商工会議所等3団体から「凍結を含めて検討を」と要望書を出しています。また、先ほどの同友会の景況調査結果の報告では、26年前の調査開始以来最大の悪化を記録し、6期連続の悪化を示したようです。このことに反映してか、政府は、6月の全世代型社会保障検討会議において、雇用を守ることが最優先だとして、最低賃金引き上げに関して消極的な態度を示していました。

しかし、日弁連会長声明、自民党最賃一元化議員連盟、連合及び全労連は、反対にコロナだからこそ、最低賃金を引き上げて、経済の下支えている非正規労働者の格差是正、東京一極集中を止め、地域経済と同時に中小企業への抜本的支援を求めています。愛労連としても、昨年12月の最低賃金労働者委員の補欠選挙、2月の最賃生活体験、春の地域総行動における自民党を含めた全国一律最低賃金制度を求める紹介議員のとりくみ、毎月の宣伝行動、49号に及ぶ最賃ニュースの発行など、これまで以上に運動を展開してきました。何としても、時給1500円に近づく引き上げを求めますし、これから改定作業は地方最低賃金審議会に舞台が移ります。愛知県で出来ていない最賃生活体験者や非正規労働者の「生の声」を聞く場の意見陳述をぜひ実現したいと考えています。

総会議長から紹介がありますので、一部にとどめますが、全国一律最賃制度に関して紹介議員になっていただいた関係でメッセージを依頼したところ、何とこちらがびっくりしていますが、自民党の元内閣府特命大臣の愛知10区の江崎鐵磨議員と14区の今枝宗一郎議員からきました。また、愛知県知事からも来ていますので、ぜひご覧ください。

第3に、安倍政権の評価です。モリカケ疑惑の公文書の廃棄・改ざんから自衛隊日報、桜を見る会に河井前法務大臣夫婦の公選法違反など、数えたらキリがなく、国民の怒りが爆発しています。しかし、安倍首相自身の保身で「任命権者として責任を痛感」と口先だけで、「権力の私物化」は目に余り、言葉に重みも誠実さのかけらもありません。その一方でアメリカからの要求には、しっぽを振って兵器を爆買いし、沖縄県民の何度とわたる辺野古の新基地建設反対の声を聞いたことがありません。人々のいのちやくらしを軽視する態度は、民主主義国家とは到底言えません。でも、改憲を叫ぶも動かさず、検察庁法改正も廃案にさせ、声を上げれば政治を変えられることを労働者・国民は実感しました。私たちの力で、即刻安倍政権を退陣に追い込みましょう。いかがでしょうか。

最後になりますが、8時間働けば人間らしく普通の暮らしが出来る社会の為に、労働者の生活と権利を守る運動、憲法を守り生かす運動、そして社会保障の充実を求め、県民の要求を実現し暮らしを守る運動の先頭に立つ愛労連を強く大きくすることが今、求められています。そのためにも各職場・地域で組織拡大強化を旺盛に進めましょう。

本日の定期大会において代議員のみなさんの活発な議論が展開されることを期待して、私のあいさつとさせていただきます。

2020年7月26日
愛知県労働組合総連合
議長 知崎 広二